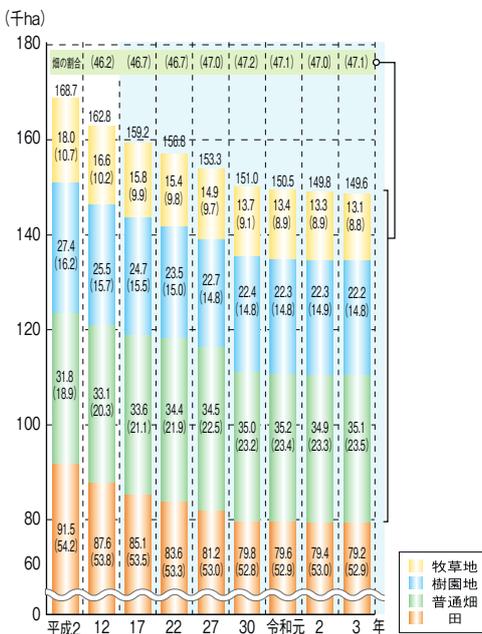


# 5 農 業

## 農地の動き

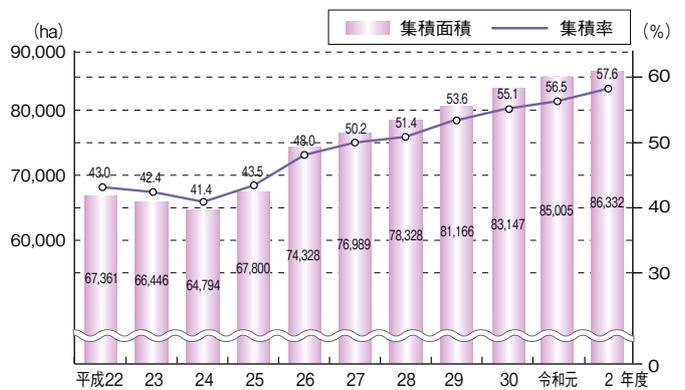
- 令和3年の耕地面積は149,600haで、うち田が53.0%、普通畑が23.3%。樹園地が14.9%、牧草地在8.9%となっています。
- 令和2年度の担い手への農地利用集積面積は86,332haで、耕地面積の57.6%となっています。
- 県内の水田面積は79,366haで、令和2年度までに30a程度以上の標準区画に整備された面積は53,644ha（67.6%）、このうち1ha以上の大区画に整備された面積は2,129ha（2.7%）となっています。

### ■耕地面積の推移



注) ( ) 内は構成割合 (%) 出典: 耕地及び作付面積統計

### ■担い手への農地利用集積の状況



出典: 県構造政策課

### ■水田の整備状況

水田面積 79,366ha (100%)	整備済み		未整備 11,177ha (14.1%)
	20a区画未満 の小区画 14,545a (18.3%)	30a程度以上の標準区画 うち1ha区画 以上 2,129ha (2.7%)	
		53,644ha (67.6%)	

出典: 県農村整備課



整備された農地 (東北町)

## 農業生産基盤・農村環境づくり

### 現 状

- 環境との調和に配慮した農業用排水路等の整備により、安全・安心な農作物を育む農業生産基盤づくりを実施しています。
- 暮らしに密着した集落内の道路や水路等の整備により、住みよい農村環境づくりを実施しています。

### 最近の特徴的な取組

- 生産コストの低減や需要に応じた作物への転換を可能とする農地の大区画化や汎用化の推進
- 水田地域において、農作業の更なる省力化を推進するため、「スマート農業に対応した基盤整備の手引き」を作成
- 農業用ため池に関する各種相談窓口として、青森県土地改良事業団体連合会内に「青森県ため池サポートセンター」を設置

### 今後の推進方向

#### <豊かで持続可能な農業・農村の実現>

##### ■担い手への農地の集積・集約化の推進

ほ場整備などの基盤整備の実施に当たっては農地中間管理機構と連携しながら、担い手に対し面的なまとまりのある農地の利用集積を促進

##### ■力強い農業を支える生産基盤整備の推進

農作業の省力化と生産コストの低減を図る農地の大区画化を実施

高収益作物の生産拡大に向けた水田の畑地化・汎用化の実施や生産体制の整備を推進

##### ■担い手の所得向上を図る作物導入の促進

生産者と指導関係機関が一体となって、実需者と連携しながら、高収益作物を中心とした攻める農業を推進

##### ■農業水利施設の長寿命化・農村地域の防災減災対策

安全・安心な水資源を次世代に継承していくため、老朽化が進行している農業水利施設について、機能保全計画に基づき計画的かつ効率的な補修・更新を実施

頻発化・激甚化する豪雨、地震等に対応するため、農業水利施設の耐震対策や洪水被害防止対策などのハード対策に加え、既存ダムの洪水調節機能の強化など「流域治水」の取組を推進

##### ■農村の地域資源の適切な保全管理の推進

地域が共同で行う、多面的機能を支える活動や、地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図る活動を支援

農業生産条件が不利な状況にある中山間地域等において農業生産の維持を図りながら、多面的機能を確保する活動等を支援

##### ■暮らしやすい活力ある農村づくりの推進

生活基盤の機能を併せ持つ農道等の機能維持や農業集落排水施設の老朽化対策などを効率的に推進

生態系の保全・再生に配慮した水路整備等による多面的機能の増進



大区画ほ場での田植え（南部町）



営農構想実現に向けた発表会（青森市）



整備された頭首工（子子町）



整備された農道トンネル（深浦町）

# 農産物の生産と流通

## ① 米

### 現 状

- 特A評価をデビューから7年連続で取得した「青天の霹靂」がけん引役となっています。
- 業務用米として評価が高まっている「まっしぐら」が作付面積の約8割を占めています。

### 最近の特徴的な取組

- 新たな良食味品種「はれわたり」の育成
- ブランド米生産支援システム「青天ナビ」を活用した水田1枚ごとの技術指導の展開
- スマート農業技術を活用した大規模稲作省力作業体系の実証
- 酒造好適米「吟烏帽子」等の産地化の推進

## 今後の推進方向

### <農業・農村の根幹である「水田農業の再構築」>

- 県産米をけん引する「青天の霹靂」のブランド力の強化
- 市場ニーズに対応した多様な米づくりの推進
- 安全・安心で消費者に信頼される産地の育成
- 労働力不足に対応した生産技術の導入促進
- 新規需要米、高収益野菜等の導入による需要に応じた米生産の推進

### ■ 作付面積と収穫量

区 作	作付面積 (ha)	10a当たり収量 (kg)	収穫量 (t)	作況指数
平成2年	67,300	607	408,500	105
7	70,000	578	404,600	100
12	56,600	599	339,000	104
17	53,800	600	322,800	103
22	49,400	578	285,500	100
27	43,500	616	268,000	105
令和元	45,000	627	282,200	106
2	45,200	628	283,900	105
3	41,700	616	256,900	102

出典：農産物統計

### ■ 作付品種の検査数量及び等級割合（令和3年産）

区 作	検査数量 (t)	1等米比率 (%)
		1等米比率 (%)
つがるロマン	17,099	84.6
まっしぐら	135,843	92.5
青天の霹靂	7,833	95.0
その他	1,865	—
計	162,640	91.7

注1) 検査数量及び1等米比率（水稲うるち米）は、令和3年10月末現在  
出典：東北農政局



「青天ナビ」を活用した現地指導



自動直進田植機と水管理装置の実演会



新品種の現地検討会



## ② 畑作物

### 現 状

- 県産大豆は、近年、豆腐や味噌用として実需者からの引き合いが強くなっています。
- 県産そばは、地産・地消の取組がみられます。
- 葉たばこの収穫面積・販売額は全国で4位となっています。

### 最近の特徴的な取組

- 大豆の品質・単収向上に向け、新たな湿害対策技術への取組が増加。
- 地域の活性化につながる特色のあるそば品種の導入。

### 今後の推進方向

#### <大豆・小麦作等の経営安定>

- 大豆・小麦・工芸作物等の低コスト、高品質安定生産の推進

#### ■ 主な畑作物の作付面積

(単位：ha)

区 作	大豆	小麦	葉たばこ	そば	小豆	なたね
平成2年	3,190	5,500	1,484	2,600	2,120	276
7	1,910	1,110	1,640	1,240	1,290	294
12	4,020	1,670	1,642	2,670	1,130	245
17	3,770	2,410	1,497	2,830	738	244
22	4,320	2,230	1,356	1,810	457	229
27	4,500	1,170	992	1,540	203	249
30	5,010	907	821	1,640	150	270
令和元	4,760	747	687	1,680	—	193
2	4,840	716	635	1,670	—	202
2年収穫量(t)	6,050	1,870	1,486	668	—	398

出典：H17まで：園芸作物統計  
H22以降：作物統計（葉たばこ除く）、葉たばこは県農産園芸課



大豆 (中泊町)

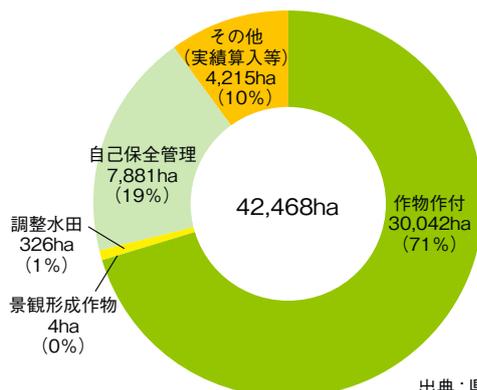


葉たばこ (八戸市)



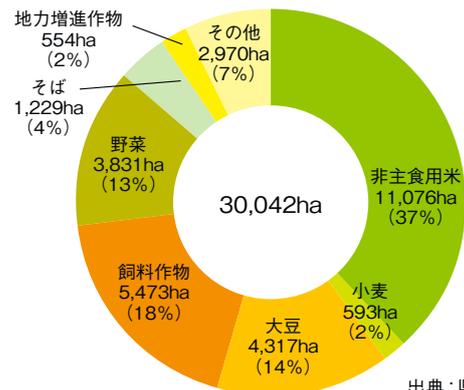
夏そば (十和田市)

#### ■ 水田活用状況 (令和2年)



出典：県農産園芸課

#### ■ 転作田での作物作付けの内訳 (令和2年)



出典：県農産園芸課

### ③ 野菜

#### 現 状

- にんにくは全国出荷量の70%、ながいもは40%、ごぼうは41%を占め、全国有数の産地となっています。
- 野菜の産出額のうち、ながいも、にんにく、ごぼうの3品目で5割を占めています。
- 野菜の指定産地は38産地（令和4年1月）となっています。

#### 最近の特徴的な取組

- ながいも・にんにくの優良種苗供給体制の強化
- 「あおりながいも産地力強化戦略」に基づく、「ながいもの達人」の技術の伝承等による若手生産者の育成
- 加工・業務用野菜産地の育成・拡大の推進

### 今後の推進方向

#### <野菜等の生産力強化の推進>

- 野菜の消費動向や販売環境の変化を見据えた生産力の強化
- ながいも・にんにくの産地力強化

#### ■ 野菜の作付面積

(単位：ha)

区 作	野菜作付面積	だいこん	ながいも	にんじん	ね ぎ
平成2年	22,170	2,930	3,040	2,100	400
7	21,250	3,330	2,700	2,060	507
12	20,850	3,440	2,770	1,670	584
17	17,100	3,170	2,770	1,140	534
22	16,080	3,180	2,290	1,270	588
27	15,112	3,060	2,250	1,240	549
30	15,294	2,990	2,250	1,160	511
令和元	15,726	2,970	2,250	1,190	498
2	15,098	2,830	2,230	1,200	487

区 作	ばれいしょ	にんにく	ごぼう	メロン	トマト
平成2年	2,170	2,000	1,020	754	352
7	1,850	1,570	1,200	1,110	385
12	1,800	1,530	1,480	1,090	407
17	1,340	1,310	1,760	818	407
22	1,080	1,390	2,250	677	393
27	803	1,350	2,320	543	386
30	725	1,420	2,350	522	369
令和元	658	1,440	2,360	526	365
2	672	1,460	2,320	490	374

出典：野菜生産出荷統計 ※トマトはミニトマト、加工用を含む



にんにくの収穫作業（十和田市）



ながいもの収穫作業（十和田市）

#### 出荷量が全国で上位の品目（令和2年）

（ ）は全国シェア



第1位 にんにく  
(70%)



第1位 ごぼう  
(41%)



第2位 ながいも  
(40%)



トマト・ミニトマト現地検討会(黒石市)

## ④ 花き

### 現 状

- 夏季冷涼な気候を生かして生産される本県花きは「色鮮やかで日持ちが良い」と市場評価が高く、キク、トルコギキョウ、アルストロメリアを主体に生産されています。

### 最近の特徴的な取組

- 本県に優位性のある夏秋期生産の強化
- 技術交流等による担い手の育成
- 県産花きの魅力を発信するイベントや販売キャンペーン等の実施

## 今後の推進方向

### <花きの夏秋期生産の強化と消費拡大>

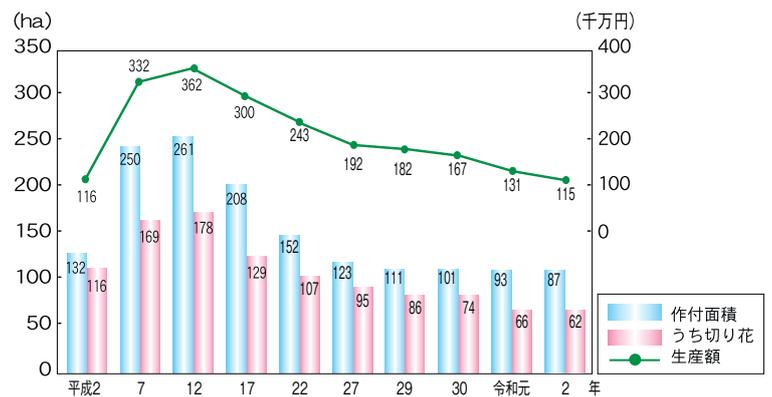
- 日持ち性向上に向けた生産から出荷にわたる管理技術の指標作成と「夏秋期生産強化チーム」による技術指導
- 若手生産者を対象とした技術研さんや生産意欲向上に向けた研修会の開催や情報誌の発行による担い手育成
- PRイベントによる認知度向上

### ■ 県推進品目の作付面積 (令和2年)

品 目		面 積 (a)
重要品目	キク	1,643
	トルコギキョウ	771
地域振興品目	ケイオウザクラ	815
	ヒマワリ	372
	アルストロメリア	182
	カンパニュラ	98
	デルフィニウム	100

出典：県農産園芸課

### ■ 花きの作付面積と生産額



出典：県農産園芸課

### ■ 重要品目



キク



トルコギキョウ



あおもりの花・特得ウィークのフラワーアレンジメント

### ■ 地域振興品目



ケイオウザクラ



ヒマワリ



アルストロメリア



カンパニュラ



デルフィニウム

## ⑤ りんご

## 現 状

- 全国の生産量の約6割を占めています。
- 主力品種は、ふじ、つがる、王林、ジョナゴールドです。
- 約30万トンが県外に出荷されています。うち、約3万トンが輸出されています。

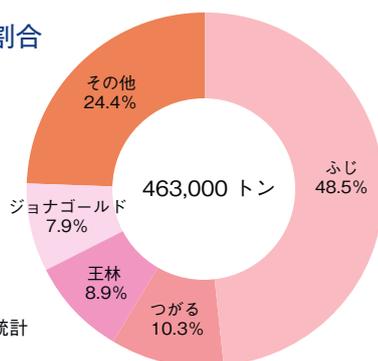
## 最近の特徴的な取組

- 青森りんご良食味安定生産推進運動による商品性の高いりんごの生産
- 高密度わい化栽培の推進
- りんご剪定枝の収集機等農業機械の導入
- 東アジア・東南アジアを中心とした輸出の振興

## 今後の推進方向

## ＜売れるりんごづくりの推進＞

- 気候変動に対応した適正管理や適正着果など生産力強化による高品質りんご生産の推進
- 産地力の強化と災害に強い園地づくりの推進
- 安全・安心で環境に配慮したりんご生産の推進

■ 品種構成の割合  
(令和2年)

## ■ 栽培面積

区 分	栽培面積 (ha)	わい化栽培 (%)	有袋栽培 (%)
平成2年	25,300	10.4	71.0
7	24,300	11.4	50.0
12	23,400	16.0	42.1
17	22,600	18.3	41.2
22	21,700	21.4	31.8
27	20,800	23.1	25.8
29	20,700	23.6	21.3
30	20,600	24.1	23.4
令和元	20,500	24.1	20.5
2	20,400	24.2	21.3

出典：農林水産省統計、県りんご果樹課

## ■ 収穫量

(単位：t)

区 分	収穫量	出荷量	輸出量
平成2年	501,000	468,900	1,074
7	481,300	450,800	2,421
12	407,200	366,600	2,160
17	423,400	380,200	18,899
22	452,500	407,700	17,940
27	470,000	427,300	36,304
29	415,900	376,500	33,150
30	445,500	402,900	33,194
令和元	409,800	371,800	31,772
2	463,000	420,100	34,432

注) 平成17年以降の輸出量は全国の値(このうち本県産は9割と推計)  
出典：農林水産省統計、財務省貿易統計

## 青森りんごの仲間たち



りんご剪定枝の収集機



台北駐日経済文化代表処表敬訪問

## ⑥ 特産果樹

### 現 状

- 西洋なしの生産量は全国第3位となっています。(令和2年)
- ぶどうは、特産果樹では最も生産量が多くなっています。
- ももは近年津軽地域での産地化が図られています。
- ブルーベリー、カシスなどの地域特産的な果樹が生産され、各種加工品が開発されています。

### 最近の特徴的な取組

- さくらんぼ新品種「ジュノハート」の高品質安定生産に向けた取組の推進
- 消費者の嗜好にあった「シャインマスカット」等の良食味ぶどう品種の普及
- 半追熟果の出荷による西洋なしの有利販売
- もものリレー出荷に向けた新品種の導入

※特産果樹とは…青森県では、地域特産的な色彩の強い、りんご以外の果樹の総称として使用しています。

## 今後の推進方向

### <特産果樹の振興>

- 優良品種の生産拡大と品質向上による特色ある産地づくりとブランド化の推進
- 高品質安定生産の推進
- 観光農園や直接販売、加工品づくりの推進

### ■ 特産果樹と栽培面積

(単位：ha)

区 作	ぶどう	さくらんぼ	西洋なし	もも
平成2年	615	276	164	96
7	515	389	166	93
12	482	389	165	99
17	466	398	170	114
22	455	322	148	104
27	462	305	151	126
29	453	—	148	—
30	446	—	143	—
令和元	429	—	140	138
2	426	303	140	140

出典：園芸作物統計、耕地及び作付面積統計

### ■ 特産果樹の収穫量

(単位：t)

区 作	ぶどう	さくらんぼ	西洋なし
平成2年	7,900	1,760	2,140
7	6,350	1,170	1,970
12	6,090	690	1,920
17	5,210	1,460	2,020
22	4,910	807	1,560
27	4,420	—	2,090
29	3,940	—	1,850
30	4,490	—	1,850
令和元	4,630	—	1,940
2	4,810	682	1,720

出典：園芸作物統計、果樹生産出荷統計

### ■ 特産果樹の主要品目

ぶ ど う	スチューベン、キャンベル・アーリー、シャインマスカット
さくらんぼ	佐藤錦、紅秀峰、ジュノハート
西 洋 な し	ゼネラル・レクラーク、ラ・フランス
も も	川中島白桃、あかつき、まどか



ジュノハート適期収穫研修会



ジュノハート目揃い会



シャインマスカット



ジュノハート  
(りんご研究所南果樹部提供)



川中島白桃



ゼネラル・レクラーク

## ⑦ 畜産物

### 現 状

- 全青森県の農業産出額のうち、畜産の産出額は885億円と部門別でトップを占めており、上位10品目のうち、畜産物が5品目を占めています。
- 本県の家畜飼養頭羽数の全国順位は、大家畜（肉用牛・乳用牛）が中位、中小家畜（豚・鶏）は上位。
- 1戸当たり飼養頭羽数は、採卵鶏が全国第1位、豚・ブロイラーも上位となっており、大規模化が進んでいます。

### 最近の特徴的な取組

- 全国和牛能力共進会に向けた取組強化
- 幅広い年代を対象とした畜産業の魅力発信
- 農場HACCP、JGAP家畜・畜産物の認証取得の促進
- 公共牧場や水田を活用した地域飼料資源の利活用推進
- 県獣医師職員確保対策の推進

### 今後の推進方向

#### <経営基盤の強化と高品質な畜産物の生産>

- 社会・経済環境の変化に対応した経営基盤の強化と労働力・次世代の人材確保
- 畜産物の高い生産性と持続的生産体系への転換
- 消費者から選ばれる安全で安心な畜産物の安定供給
- 地域飼料資源の有効活用による自給飼料の増産と利用の拡大
- 資源循環型畜産の確立に向けた家畜排せつ物の適正処理と利用推進
- 飼養衛生管理基準の遵守の徹底と防疫対策の充実・強化



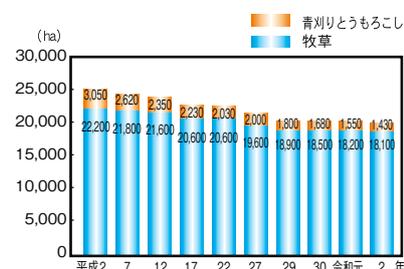
県内農業高校生を対象とした畜産施設見学研修

#### ■ 主要家畜の飼養頭羽数

区 作	乳用牛	肉用牛	豚		鶏卵鶏 (成採めず)	ブロイラー
			肉用種	乳用種		
平成2年	24,300頭	56,200頭	—	—	4,066千羽	3,777千羽
7	23,400	61,200	—	—	4,402	4,295
12	19,000	55,800	26,400頭	29,400頭	4,479	4,517
17	16,700	56,500	25,300	31,200	—	5,060
22	13,900	62,400	28,700	33,600	—	6,105
27	11,600	55,000	24,600	30,500	—	—
30	11,300	55,900	27,600	28,300	5,714	7,018
令和元	11,700	53,500	28,100	25,400	5,186	6,943
2	11,800	53,700	28,900	24,700	—	—
3	12,000	53,400	29,900	23,500	5,332	7,087

※平成17年、22年、27年及び令和2年の豚、採卵鶏及びブロイラーについては、農林業センサス実施年のため、調査を中止している。※合計が一致しない場合がある。  
出典：農林水産統計年報、県畜産課、畜産統計

#### ■ 飼料作物の作付面積



出典：作物統計

#### ■ 特産地鶏「青森シャモロック」生産羽数

区 分	生産羽数(羽)
平成14年度	13,000
17	30,000
22	70,900
27	66,101
29	62,157
30	60,786
令和元	52,520
2	37,610

出典：県畜産課

#### ■ 公共牧場における放牧状況

区 分	公共牧場	草地面積	放牧頭数
平成2年	133か所	10,016ha	19,795頭
7	118	8,243	14,397
12	108	7,286	10,332
17	100	7,181	8,120
22	99	6,882	6,534
27	94	6,732	5,657
30	91	6,295	5,144
令和元	90	6,290	4,880
2	90	6,192	5,024

出典：県畜産課



県基幹種雄牛「忠光安」



公共牧場における黒毛和種の放牧  
(田代平)



コントラクターによる  
飼料生産



青森シャモロック  
(本県の特産地鶏)